

グループリビング運営協議会 10周年イベントのご報告



基調講演 市原美穂氏

3月3日（日）に神奈川県藤沢市COCO湘南台において、グループリビング運営協議会10周年イベントを開催しました。小島会長の開会の挨拶の後、NPO法人ホームホスピス宮崎の市川美穂氏の基調講演「自分らしさを尊重しながら、当たり前を送るための支援～ホームホスピスの取り組みから～」がありました。“かあさんの家”での尊厳重視の支援に感銘を受けました。たいへん好評な講演となりました。その後、グループリビング運営協議会の会員や関係者14人がグループリビングに関する自由テーマで発表をおこない、最後に、NPO法人COCO湘南理事長小川泰子氏の閉会の挨拶で終了しました。

コロナ禍の影響で、久しぶりに会員の皆様と対面でお会いする機会となりました。

参加人数は51人（現地参加25人、オンライン参加26人）でした。

多くの皆様にご参加いただき盛会のうちに終了することができました。ひとえに、会員の皆様、ご出席下さいました参加者のお陰と、深く感謝致しております。

グループリビング運営協議会の役割と仲間

グループリビング運営協議会 会長
NPO 法人暮らしネット・えん 代表理事
小島 美里



グループリビング運営協議会がスタートしたのは2012年、もうすぐ12年になります。10周年を祝う時期はコロナ禍の真っ最中、遅ればせの10周年記念号となります。

この会は、COCO湘南台をモデルにしたJKA助成事業対象のグループリビング（GL）を中心に始まりました。モデル事業でオシマイになっては意味がない、多額の助成を得て立ち上げた成果を伝えてGLを増やそう、というのが目的。そして会にはGLを始めたいという相談がいくつも寄せられ、多くの困難を乗り越えて開設されています。取り組んだのは、大きな団体や潤沢な資金や土地に恵まれている方々ではありません。苦労してでも開設したいと思わせる魅力が、COCO湘南台をはじめ先行するGLにあったのだと思います。わが「グループリビングえんの森」は助成事業のラストワンで、最初は8割だった補助率が5割になり、会合のたびに不平をならしていた私は穴があいたら入りたい気分です。

地域を見回すと、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、ケアハウス等々、様々な形の高齢者居住が林立しています。それらとどう違うのか、協議会の大テーマはつまるところここにあるのではないのでしょうか。人の手にゆだねなければならないことが日々増えていく高齢期にあっても、運営者も交えた居住者同士、地域の人々とまじりあい支えあって暮らしていきたい。それがどこまで実現されているか、ではなく、実現させようとしているか、確かめ合うのがこの協議会の役割でしょう。私自身、皆さんとの交流に励まされ教えられながらこの12年を乗り越えてきました。仲間がいるってほんとうに心強い。

今家族を持つことが当たり前ではない社会が到来し、個に閉じこもらない居住を模索する人々が増えていると聞きます。若い世代の集住の形にも学んでいきたいと願っております。

“自立と共生” テーマのある面白い家に暮らして

NPO 法人 COCO 湘南台

居住者 熊澤 淑

(居住歴 19 年)

家の住み替えを考えていた頃、かつての同僚に街で偶然出会った。その時「西條さんが面白い家をつくっているから見に行ったら」という話が出た。

面白い家といっても、いろいろある。形が面白いとか、色が面白いとか。私は興味シンシンで早速見学に行った。その結果、私の予想は見事にはずれ「自立と共生」というテーマのある家であった。家にテーマがあるとは面白いと、早速入居することにした。それが「COCO たかくら」であった。新築であったということも入居を決心させる要因であったと思う。

「COCO たかくら」に入居してからは、生活者（COCO で暮らす人）は一か月に一度「自立と共生」について西城先生のお考えをうかがい、それを中心に話し合いをもって、このテーマについての理解を深めていった。

そんなことが一年間くらい続いたころであっただろうか。西城先生より「私の代行として関西に行ってきてほしい」という話があった。先生の代行など思ってもいなかった。私は即座にお断りした。しかし、先生のプッシュは強く、私が退院して間もなくで、体力もついていないからとひたすらお断りをしてもだめだった。とうとう亀井江里子さん（現ライフサポーター）と二人で関西に行くことになってしまった。自信がない私は、関西に行く前に再度先生をお尋ねした。その時、先生は“自立と共生”を生きることによって、人生の着地点を少しでも先に延ばすことができたらね。しみじみとした口調でおっしゃった。先生はこのテーマのあることを常に考え願っていらっしゃるのだと感じ、入居したことの幸せをしみじみ感じた。

あれからもう10年余りの歳月が流れた。私は「COCO 湘南台」の中で作品を制作し、展覧会にも出品したりして生活してきている。作品だけを見ている友達は「あなたのアトリエは広くていいわね」と羨ましがっているが、大きい作品を制作する時は食堂や事務室をアトリエに、丈の高い作品を制作する時は吹き抜けのある食堂をアトリエにと、「COCO 湘南台」の建物中を使い制作しているのである。それは小川理事長や大江理事長の芸術に対する深いご理解と生活者の方々のご理解と我慢のおかげ様と常に感謝している。

グループリビング運営協議会に感謝！

NPO 法人いぶりたすけ愛
理事長 星川 光子

2007年にJKAの補助事業で、グループリビング「たすけ愛の家」を作ることができました。漠然と高齢者が暮らせるところが欲しいと思っていた私たちは、この事業のモデルであるCOCO湘南台を知らず、事業が決まってから、勉強を始めました。そんな私たちにとって、COCO湘南台を訪問し西條さんから指導していただいたこと。そして「全国高齢者生き生きグループリビング支援事業」に助けられてきました。

2012年には、グループリビング運営協議会が設立し、引き続き、勉強の機会を持つことができました。全国の仲間とのネットワークができ、情報交換で常に刺激をもらい、また、日常からリフレッシュできる楽しい時間となっています。

グループリビングの建築費の補助金がなくなり、新しく作ることが難しくなっていますが、その中でも新たなグループリビングが生まれていることは、本当に嬉しいことです。これからも、超高齢社会の不安の中で、豊かな高齢者居住を作るために、学び合い、助け合っていきましょう。

コロナ禍では、zoomでの勉強会、会議となり、直接お会いできない寂しさもありましたが、10年続けることができましたのは事務局の土井原さんや、研究者の皆さんのおかげと感謝しています。2007年にJKAの補助事業で、グループリビング「たすけ愛の家」を作ることができました。漠然と高齢者が暮らせるところが欲しいと思っていた私たちは、この事業のモデルであるCOCO湘南台を知らず、事業が決まってから、勉強を始めました。そんな私たちにとって、COCO湘南台を訪問し西條さんから指導していただいたこと。そして「全国高齢者生き生きグループリビング支援事業」に助けられてきました。

2012年には、グループリビング運営協議会が設立し、引き続き、勉強の機会を持つことができました。全国の仲間とのネットワークができ、情報交換で常に刺激をもらい、また、日常からリフレッシュできる楽しい時間となっています。

グループリビングの建築費の補助金がなくなり、新しく作ることが難しくなっていますが、その中でも新たなグループリビングが生まれていることは、本当に嬉しいことです。これからも、超高齢社会の不安の中で、豊かな高齢者居住を作るために、学び合い、助け合っていきましょう。

コロナ禍では、zoomでの勉強会、会議となり、直接お会いできない寂しさもありましたが、10年続けることができましたのは事務局の土井原さんや、研究者の皆さんのおかげと感謝しています。

グループリビングを広める方法

NPO 法人グループリビング川崎
理事長 原 眞澄美

グループリビングがはじまっておよそ25年。自分たちも作ろうと立ち上がった人たちが全国に広がり、その良さを体験した人達が増えていこうとグループリビング運営協議会ができました。どうしたらもっと広めていけるのでしょうか。

ひとつは行政の応援を得ることだと思います。COCO 宮内は川崎市の支援があり、始めることも続けることもできました。6年前からは趣味の教室アトリエ21が高齢者の居場所として委託を受け活動しています。

もう一つはグループリビングを体験してもらうことだと思います。新潟で大雪になった年、駅前の丈夫な建物に山間の高齢者が共同で住みボランティアが手伝い、自分たちでも炊事や掃除をしている風景がテレビニュースで紹介されました。一瞬、これだ！と思いました。地震をはじめとした自然災害により、仮設住宅を建てるとしたら、共同生活を希望する人には個室以外を共同にしてひとりぼっちでない生活を体験することで、生きる力がわくでしょう。

そしてグループリビングを、運営していく人達の気持ちです。いつだったか、西條先生が友達に「あなたのしていることは、何なの？趣味？」と聞かれたそうです。それで、「悔しいから、趣味よ」と言ったのよ、とおっしゃっていました。趣味とは言わずとも楽しんで携われる気持ちを持つことが必要だと思っています。



「COCO 湘南台にある自立と共生」

NPO 法人 COCO 湘南 理事長
社会福祉法人いきいき福社会 理事長
小川 泰子

「土地、金なし」で理想の家―

新聞紙面にドーンと座しているこの10文字に目が止まった。「COCO 湘南」創設者西條節子さんが取材された時の記事、15年ほど前でしょうか。この“「土地、金なし」で理想の家―が最近とても気になるのです。その理由は、一ますます深刻になる日本社会の経済格差とジェンダーギャップです。

日本のこどもの貧困率は1980年以降ずっと上昇傾向にあり、2019年には13.5%です。そして、女性の貧困率は17.4%、そのことはそのまま子どもの貧困となります。年金が少ない高齢女性はもっと深刻です。5080問題（80歳の親のお金で暮らす50歳の子ども家庭の増大）も地域に増えてきています。そのような社会状況にあって、日本の社会保障制度の現実「土地、金なし」にはますます厳しい時代です。

西條節子さんが「COCO 湘南台」を創ったのは25年前に考えたことは、

- 1) 男性より低い女性の年金額
- 2) 箱物の施設に入って、システムに合わせるなどできない
- 3) 個人の生活を大事にしながら、安心して暮らす

以上を念頭に、キーワードは「自立と共生」。自立とは自己決定、共生とは地域住民として暮らす、そして、「土地、金なしで理想の家」となったのです。

私は、社会福祉法人で、その「箱物の施設」を経営している。そこから見える「少子高齢社会の住まい」の理想と現実。でも、「無ければ創る」でやってみせてきた西條節子さん、その西條さんが創った「グループリビング COCO 湘南台」は、今そこに住み・暮らす居住者のみなさんの生き方で、まさに「自立と共生」の理想の家があります。

これからは高齢者だけじゃなく、若い世代、女性、子ども、もちろん男性も、「多世代の理想の家」をカタチにしていかなければならないと考えます。

助けられ上手は意外に少ない

助け合い（福祉）は教条主義や性悪説に基づいて構成されているのか？

グループリビングで学んだ信頼が原則の助け合い

グループリビング協議会 10 周年記念に寄せて

特定非営利活動法人結いのき
専務理事 井上 肇

大江守之先生がみちのく米沢に仕掛けた高齢者同士の助け合い活動は、当初は米沢市の大手の社会福祉法人でした。講座を街中で開催しておられることは私たちも認識はしていました。わざわざ COCO 湘南台理事長西條節子先生の講演などにも参加させていただき、このような高齢者が集まって共同住宅をこの米沢で誰が運営するのだろうかという疑問も持っていました。そのお鉢が私たちにまわってくるとは想像もしていませんでした。

ある日大江先生が、私たちがたころう所やグループホームを運営していることを知り訪ねてこられました。そしてこの地に COCO 湘南台のようないつまでも自立したグループリビングを作ってみないかとお誘いでした。大江先生の誠実なお人柄や研究者というよりも実践者としてのリーダーシップを感じて、すぐにその意思をお引き受けすることにしました。

グループリビング1号館に続き2号館も建設して、つくづく思ったことはお隣同士、1階同士、2階同士、全館同士の助け合いの難しさです。私たち常勤者を通しては何ということもないことでも、気軽に声掛けや助け合いがリーダー抜きでは動けないのが実態でした。旅にいる（これは主に関東を指す言葉）娘においては、介護施設や病院と間違った認識で事務局に遠慮ない罵声に近い言葉を吐かれる教条主義の人は例外ではありません。

助け合いがサービスに転換するきっかけは介護保険制度かもしれません。しかし、優れた介護保険制度に仕上げていくのにも、大江先生がよく言われていた「家族や近所同士のお互いの助け合いがあつてのこと」だと実感しています。

行政が織りなす福祉の現場でも、物事の判断や生活は24時間あることを考えていない制度や法律の中で性悪説のなかで、不自由さといのちを預けている高齢者や障がいのある方を私たちは制度を超えた「お互いさま」を合言葉にグループリビングを助け合いの場に成長していくお手伝いをさせていただきます。

この間にご指導をいただきました大江先生や東日本大震災時から寄付をおよせくださいました故・西條先生はじめ COCO 湘南台の皆様感謝を申し上げます。

グルーリビング運営協議会 10周年、おめでとうございます

一般社団法人自立と共生の暮らし
グルーリビング『COCO 多治米』
代表理事 中川 恵子

2020年1月に『COCO 湘南』の二つのグループリビングを見学させていただいたのを機に土井原様よりお誘いをいただき、加入させていただきました。その後、いろいろとアドバイスをいただき、また研修に参加させていただいたことは、福山で初めてのグループリビング設立に向けて手探り状態でしたのでとてもありがたく思いました。特に、会員である福山大学工学部建築学科准教授の佐々木伸子先生をご紹介くださったことは地元福山で研究面の支えをいただくこととなり、とても心強くありがたく思っています。

2023年4月23日に竣工式、6月オープン。10月にはオープン記念ミニコンサートをおこないたくさんの方々に喜んでいただきました。現在はまだ空き室があるので居住者の募集をすると同時に、地域の方々が気軽に遊びに来られるような行事や集まりを少しずつおこなっていきたくと計画中です。

福山では『グループリビング』という住まい方はまだ認知されているとは言えませんが、これからは必要とされると思いますので、居住者、運営委員をはじめ地域の方たちと一緒に広めていこうと思います。

今後ともご援助いただきますよう、よろしくお願いいたします。



グループリビングからの贈りもの

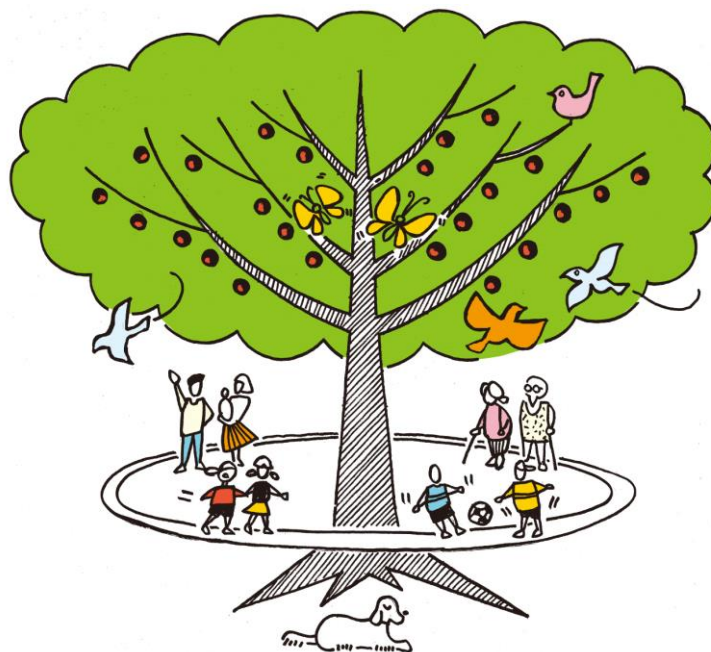
慶應義塾大学
非常勤講師 近兼 路子

設立 10 周年、心よりお慶び申し上げます。

高齢者グループリビング（以下 GL と表記します）をはじめて訪れたのは、10 年余り前、50 歳を目前に大学院に入学した年でした。運営協議会の設立間もないころと重なります。もともとは若者のシェア居住に関心を持っていたのですが、シェア居住する高齢者の知り合いがいると大学院の同窓生に紹介されたのがきっかけです。その際お伺いした居住者のお話に惹かれ、高齢期を「だれと、どこで、どのように暮らすのか」について考えはじめました。

この問いを GL にあてはめれば、「高齢期をむかえた『家族』以外の対等な他者と、居住者以外の関与者が存在するシェアハウスで、『自立と共生』を試みながら暮らす」といえるでしょう。

こうした新たな暮らしを实践する居住者、運営関係者、スタッフの方々のご協力を受け、居住者の語りと向き合い続けるうちに、語られた言葉やみなさまの生き方は、私にとって分析対象以上のものとなりました。人生の道に迷ったとき、立ちすくんだとき、それらは心の奥で宝石のような光を放ち励ましてくれています。モースの贈与論にしたがい、今年こそ、GL のみなさまから受け取った数々の「贈りものに対してお返しする義務」を果たさなければと思っています。



2040 年度問題とグループリビング

NPO 法人 COCO 湘南 副理事長
慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員
土井原奈津江

グループリビング運営協議会が設立されて、あっという間に 10 年が経ちました。そして、あと 15 年で 2040 年。この年には、日本の高齢化率が約 35%になり、生産人口の減少により、医療、介護、年金などの社会保障制度の持続性が危ぶまれています。加えて、医療や介護の需要増加に対して、人員や財源の不足が深刻化するとされています。さらに、同年、世帯主が 65 歳以上の高齢者世帯のうち、単身世帯が 40%（東京では 45%）となり、孤立・孤独化が進みます。先日の講演会「個・孤の時代の高齢期」の話にあったように、地域のつながりの希薄化や、家族・親族が疎遠な人が増え、支援が得られない人が増加しています。このままだと、ちょっとした助けが得られない人が増えるとともに、高齢期から終末までのプロセスで様々な問題を抱える人が増加することが予想されています。

デンマークは、現在、高齢者単身世帯の割合が 45%で、孤立・孤独が大きな社会問題となっています。そして、その解決策の一つとしてコ・ハウジングを、国を挙げて推進しています。コ・ハウジングに関する情報発信が多くされており、コ・ハウジングを住みこなすための講習会などもあるようです。入居希望者が多く、供給が間に合わないほどの人気があります。また、一旦入居したら、ほとんどの人は退去しないようです。今後、日本でも孤独・孤立化が進むなかで、グループリビングやコ・ハウジングのような共同居住は重要性を増してくると思います。

グループリビングの居住者に接していると、居住者どうしがお互いにちょっとした助け合いをしているのを目にします。居住者は、今日は身体的・精神的に元気でも、翌日、急変することがあります。しかし、身近に人がいるため変化に気づきやすく、早く対応することができます。一方、一人暮らしの高齢者は、変化に気づくのが遅くなる可能性が高いと思われます。同じ住まいの中という距離の近さと、助け合いのできる人間関係性の構築は、急病時やより高齢になった時の安心・安全や孤独感の解消につながります。こうしたことから考えると、居住者どうしの緩やかなつながり・見守り・助け合いのある共同居住の必要性は、今後一層高まるのではないかと考えています。

さて、昨年度の講演会の内容を踏まえ、今後の活動について考えてみました。一つは、居住者が、高齢期から死後までに居住者自身に起こりえる問題について対処できるように、自分の情報を整理することを支援する必要性を感じました。二つ目は、居住者間、居住者と運営者間、地域と居住者・運営者間の良好なつながりをつくるために、コミュニケーションを円滑にする方法を学ぶなど、共同居住を住みこなすための学習が必要だと思いました。これらについては、協議会の 2024 年度事業で、取り組めるといいのではないかと考えています。

グループリビング運営協議会メンバー募集中

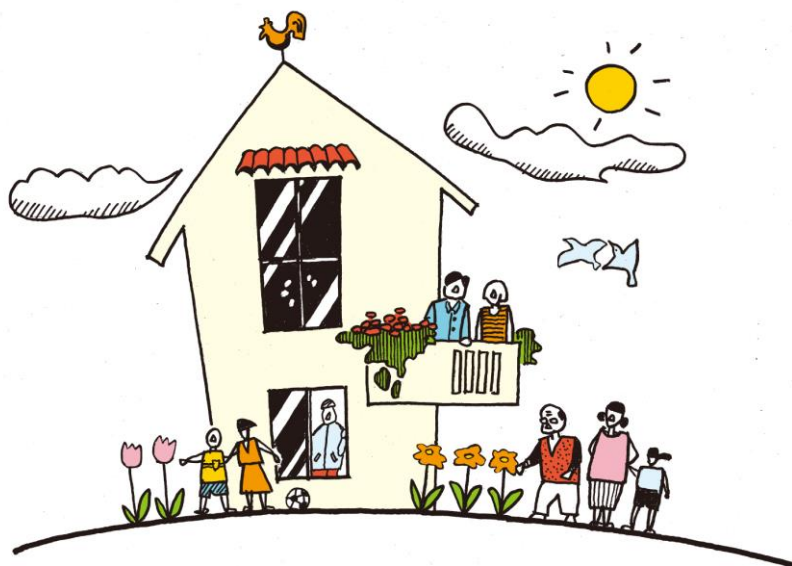
グループリビング運営者はもとより、これから作りたい人、応援したい人、研究したい人、興味がある人、またグループリビングという名称に拘らず、グループリビングに類似した共生の住まいも対象にしております。

【活動内容】

1. グループリビングへの支援・相談
2. ワークショップの開催
3. ホームページの運営
4. グループリビングの調査研究
5. その他、本協議会の目的を達成するために必要な事業。

*詳細は以下の URL にあります。

<http://glnet-groupliving.org/glnet/glnet-recruit>



編集後記

グループリビング運営協議会が10周年を迎えた。この間、COCOせせらぎ、おでんせ中の島、COCO下小田、オーナーズテラス自由が丘、COCO多治米と5件のグループリビングができた。協議会以外でも、いくつかグループリビングのような住まいがつけられている。このことからグループリビングは緩やかに増えているといえるだろう。そして、最近、グループリビングの入居希望者の見学が増えていると何件かのグループリビングから聞いているし、COCO湘南台でもそれを実感している。

デンマークでは、コ・ハウジングが大変人気である。デンマークのコ・ハウジングの研究をしていると、インターネット上に多くの情報があることがわかり、広報活動がたいへん活発なことに気がついた。居住者自身や運営者が発信する暮らしの様子や研究者が公開する調査報告など、様々な人や機関が情報を発信している。これらの情報をみながら、コ・ハウジングという住まいがあることを知り、入居を選択しているのだと思う。グループリビングも、今以上に社会に向けて情報発信することが普及につながるだろう。(な)